

ノースシヨア・バプテイスト・チャーチ日本語グループ 60周年を祝う 創立の1954年、かつて差別した人物が差別否定の裁決を

ノースシヨア・バプテイス
ト教会の日本語グループが60
周年を迎え、9月28日に祝
賀会が行われた。

第二次世界大戦後にシカゴ
に定住した一世達が礼拝する
場所を探し求め、ノースシヨ
ア・バプテイスト教会が寛大
に受け入れてくれた。こうし
て同教会内に日本語を話す
人々のグループが1954年9
月26日に設立された。

その後、シカゴに来た留学
生やビジネス人などが加わっ
た。礼拝後には一世達が日本
料理をふるまってくれ、故郷
を思う大切な場所となった。

ノースシヨア・バプテイス
ト教会の日本語グループの60
年の歴史の中で、1959年か
ら2007年まで48年に亘って
牧師を務めた南部勝牧師が良
く知られている。現在も東海
岸で健康だが、諸事情で60
周年記念祝賀会には出席でき
なかった。現在は4年前から
スクロギンズ・由紀牧師が牧

師を務めている。

スクロギンズ牧師は60周年
に寄せて、米国の顕著な史実
と日系人との関わりについて
語った。

スクロギンズ牧師によると、
1954年は連邦最高裁が公立校
における人種差別を禁じる判
決を下した歴史的な年となっ
た。これはカンザス州の溶接
工で牧師だったアフリカ系の
オリバー・ブラウン氏が、バ
スに乗って遠くの学校に通っ
ている娘が近くの学校に通え
るべきだと訴えたケースで「ブ
ラウン・ケース」として知ら
れている。

1954年5月17日、連邦最
高裁はこの件に対し全員一致
で、公立校に於ける人種差別
は違憲だと裁定した。この裁
決はその後の市民権運動の出
発点となった。この時の裁判
長はアーサー・ウォーレン氏で
あった。

ところが皮肉なことに、
ウォーレン氏は日本帝国
軍の真珠湾攻撃後、12万
人の日系人を強制収容所
に送る原動力となった人
物だった。

当時カリフォルニア
の州知事であり法務長官
だったウォーレン氏は、
日系人収容を可能にした
大統領命令9066に署名
したルーズベルト大統領領
に、大きな影響を与えた
人物の一人だった。

スクロギンズ牧師は「回
想録によると、ウォーレ
ン氏は後に自分がした事
を非常に後悔し、自分の
過ちを認めただけでな
く、衝動的に行動したこ
とを深く悔いていました。

非道な判断をした人物が罪の
意識に苛まれ苦しみ、遂に米
国のために正しい判決を下し
た、それが60年前の1954年
です。そして同じ年に、強制
収容所から解放された一握り
の日系人の人々がここで日本
語の礼拝を始めたわけでは
なく、

スクロギンズ牧師はまた、
「歴史の奇妙なねじれの中で、
市民権運動は日系人の強制収
容と繋がってしまっていた。これ



多くの教会メンバーが参加した日本語グループの60周年祝賀会。尺八の演奏は「風錦」

